

## 津保川流域 地域検討会 議事概要

日 時：平成30年12月19日（水）10：00～12：00

場 所：関市役所 6F 大会議室

出席者：地域住民、関市、富加町、岐阜県河川課、美濃土木、可茂土木

### ○ 事務局説明に対する質問

- ・ Q：“掘込河道” “外水氾濫”とはどのような意味か教えて欲しい。
- ・ A：“掘込河道”は堤防が無く背後地盤より川が低い位置にあるもの。“外水氾濫”は津保川から溢れた水のことを言い、一方“内水氾濫”という言葉もあり、“内水氾濫”は津保川以外の谷などから溢れることや、降った雨が排出されず溜まった状態を言う。（事務局）
- ・ Q：資料2 P15 被害概要にH30.7洪水の床上浸水15棟とあるがこんなに少なかったか？
- ・ A：資料は全壊・半壊・一部破損・床上・床下で被害状況を整理しているため、床上が15棟となっております。被害状況を床上・床下だけに分けまとめる場合は全壊・半壊も床上に含めて計上しますので床上浸水は255戸（平成30年8月24日現在）となります。（事務局）
- ・ Q：危機管理型水位計を追加した場所はどこか？水位計の情報は見ることができるか？
- ・ A：津保川流域では計5箇所設置した。“川の水位情報”でデータを確認することができる。（事務局）
- ・ Q：小野川はH11洪水で津保川から逆流が生じ、小学校のグラウンド等が浸水したが、対策を考えているか。
- ・ A：津保川を掘り下げるなど小野川が流れやすくする対策を考えている。小野川に土砂がたまったりした場合は、撤去するなど適切に維持管理していく。（事務局）

### ○ 参加者からの意見・質問

- ・ 河道内とその周辺の樹木の適正な管理が必要である。流木が橋に引っかかり、ダムのようになり浸水被害が発生した。
- ・ 小那比川では洪水でよく被害を受けるので、整備が組み込まれたのは大変ありがたい。今までは被害に対して現状復旧するだけであったが、川幅を拡げる等の能力向上の対策もして欲しい。
- ・ 田んぼの復旧は後にして、河川の改修を優先して欲しい。
- ・ 河川のごとは県が担当しているので、どんどん整備を進めて欲しい。
- ・ 出水時に河道の湾曲部では、外側で水面が高くなり水が浸入してくることがある。浸水被害のあった場所の河川改修については、早めの対応をお願いしたい。

- ・ Q：【上流での整備に伴う下流への影響に関する質問】
  - ・ H30.7 洪水は、上流で被害があったため、下流の被害がなかったと思うが、上流を整備していくと、下流の長良川で甚大な被害が発生してしまうのではないかということも想定して整備をして欲しい。
  - ・ 既往の洪水が整備後に発生したら下流部の水位は整備前と比べどれほど上昇するか。また、何時間ほどで危険水位を下回るか教えてほしい。
  - ・ 上流の整備が下流に影響を与えるのではないか心配である。
- ・ A：上下流の治水バランスを考慮しながら整備を進める。工事を行う際は住民の方に説明した上で工事を行いたい。（事務局）
- ・ Q：どれくらいの期間を目標として河川の整備を行うのか。
- ・ A：基本は 20 年であるが、H30.7 洪水は大きな洪水であったため、少しでも早く実施したい。（事務局）
- ・ 長期計画でやるということと理解した。短期間で実施できるようがんばって欲しい。
- ・ Q：川を掘り下げる場所は、全川なのか、部分的なのか教えて欲しい。
- ・ A：全川掘り下げるというわけではなく、環境や川の特性を考慮した上で、掘り下げなければならない箇所、川が狭く拡張しなければならない箇所等、確認しながら適切な対策を考える。（事務局）
- ・ 今の津保川は河床があがって淵がなくなってきたと思うので、河床掘削は効果的であると思う。
- ・ 土砂を除去しても上流からまた流れてくるため、上流の発生源で対策をすることが一番大事。
- ・ H30.7 洪水は情報を伝え合うことで避難することができたが、被害はすごかった。堤防を作り、河床を掘る等の対策をして欲しい。
- ・ 長良川鉄道から新富津橋までの区間において、堤防が整備されているか知りたい。
- ・ 中之保川の堰堤が半分くらい壊れているので対策をして欲しい。
- ・ H30.7 洪水では川浦川の水が津保川に流れ込まない状況であった。川浦川流域でも雨が降っていたら、バックウォーターで被害が出たのではないか心配である。川浦川の対策も実施して欲しい。
- ・ コンクリートの 3 面張りの排水路のような整備はやめて欲しい。
- ・ 自治会レベルで防災計画を立ていかに早く逃げるか検討していくこととしており、来年度から始めていきたい。人命が失われることを防ぐには、地域の人たちの協力が大切である。
- ・ H30.7 洪水を受け、自治会でも防災組織を立ち上げようとしている。
- ・ 浸水被害が発生する場所は昔からわかっている。浸水しない場所に住む等、災害を防ぐことが必要である。
- ・ H30.7 洪水に対して川の中での対策だけでは対策できないのではないか。家を建てる位置などが重要ではないか。

- ・ H30.7 洪水時に、上流の人から下流の人が危険であるという情報をもらったため、避難することができた。上流での情報を、早く下流の人に伝えることで、避難しやすくなる。
- ・ 上流の情報がなかなか下流住民に伝わらなかったのも、情報伝達方法の見直しをして欲しい。
- ・ 災害が発生した際は、どのように避難してもらうかが重要である。現状でどれくらい危険なのか、実感を持ってもらえる情報が必要。資料 2 P6 (9)洪水警報の危険度分布のような情報が見られるとよい。
- ・ 地域の避難場所は、3 箇所の内 2 箇所が危険地区内にあり、自治会で避難場所を検討しているが適地が無く困っている。
- ・ 優先順位は人の暮らしなので、人の暮らしを守った上で環境に配慮ができれば良い。
- ・ 参加者意見を聞き、人命第一だと感じた。人命・環境の両者を考慮した対策が大事である。
- ・ 川や山に生物が棲めないで、人間だけが快適な生活ができる環境はありえないので、極力環境に配慮して欲しい。
- ・ 津保川の周囲はスギやヒノキの根張りの弱い人工林で囲まれている。担当が異なるとは思いますが、人工林での保水対策ができるとうい。
- ・ 土木技術で洪水を閉じ込める改修をするのではなく、自然を活用した対策を行う方が維持しやすいのではないかと。
- ・ オオサンショウウオやネコギギは同じような場所を好む。河川改修にあたっては、瀬淵の構造や浮石環境等、これらの生物が好む場所を保全することが必要である。
- ・ H30.7 洪水時に、川から出てしまったオオサンショウウオを川に戻した。津保川には自然が残っているので環境に配慮して河川整備を行ってほしい。
- ・ Q：昔の津保川は雨の影響が翌日にも続いていたが、最近はずぐに水が引く等、川の状況は昔と変わってきているのか。山林の保水力も関係しているか。
- ・ A：洪水によって変わるので一概には言いづらい。長雨であればゆっくり水が引き、短時間の豪雨であればずぐに水が引く等、雨の降り方にも影響を受けるのではないかと思います。(事務局)
- ・ Q：川の中に竹やぶが多く見られるが、メリット・デメリットを知りたい。
- ・ A：河道内の樹木や竹藪は、メリットとして川の流れを減勢させたり、護岸の役割を持っている。デメリットとして繁茂しすぎると川の流れの阻害となる。場所に応じた対応を行っていききたい。(事務局)
- ・ Q：【ごみの回収に関する質問】
  - ・ ごみの回収はいつまでに実施するのか。20 年かかると言われては困る。
  - ・ 災害時のごみがあるままになっているので、何とかして欲しい。
- ・ A：ごみの回収は美濃土木管内で 6 割、可茂土木管内で 8 割の区間完了している。3 月末までに終わるよう継続して実施している。ボートを用いて作業する必要もあるため、時間がかかることは了承いただきたい。(事務局)

- ・ 重竹の樋門で内水を管理する方が、出水時にはボートでないと樋門にたどり着けない状況になって困ったため、出水時にも歩いていけるような状況にしてほしい。
- ・ 防災カメラは解像度が荒い。川の水の濁りも見たいので、解像度を上げて欲しい。
- ・ H30.7 洪水は、被害がすごく、被災後どうしていいかわからないほどだった。生活の不安を感じた。

以 上